新春　健康祈願法要

第56回薬師寺まほろば塾・東京塾　令和6年2月1日（木）開催

文化は生活の積み重ね

薬師寺まほろば塾　＊東京

日本人の心のあり方について考える「薬師寺まほろば塾」の東京塾（法相宗大本山薬師寺、読売新聞社主催）が1日、東京・日本橋の三越劇場で開かれた。歌人の藤原俊成・定家親子の流れをくむ歌道宗家・冷泉家の冷泉貴実子さん(76)の講演や、「伝世文化の継承」をテーマにした同寺の加藤朝胤管主、大谷徹奘執事長との鼎談に、約500人が聴き入った。

■鼎談■

大谷　今日は物を伝えていくことの難しさを中心にお話ししたいと思います。1998年12月、薬師寺が世界遺産に登録された時、実は奈良のお寺の中では議論がありました。

加藤　遺産とは人の命が尽きた後に遺ったもの。今も大勢の方々が祈りをささげるのだから、遺産という言葉に抵抗がありました。冷泉さんのお話で、文化は毎日の生活の中にあるもので、当たり前にされてきたことが800年の歴史になったのだと改めて感じました。

大谷　俊成卿、定家卿から代々続く家を伝える。ものすごく大変なことだと思います。失礼かもしれませんが、家に生まれて「やめたい」と思ったことはありませんか。

冷泉　商売をしているわけではないですから。うちは京都御所の北側で、広さが800坪くらいあり、子どもの時には「変わった家やな」と思っていました。歌会はしていたけれど、大それたことは何もなくて、普通に生活しています。

大谷　肩肘を張らずに、大事なことを伝えられているという感覚ですね。冷泉家はなぜ、現存唯一の公家屋敷になったんでしょうか。

冷泉　豊臣秀吉が御所の周りに全国の公家衆を呼び集めました。その後、明治維新で天皇にお供して公家がみんな東京に行くなか、うちは京都に残りました。先頭を切って何かやる家ではなく、世間を眺めていたことが屋敷を残したのでしょう。

加藤　平城京から平安京に遷都された時、奈良に残ったお寺も1300年続いています。浮き沈みがあっても、コツコツと続けることが一番の信頼です。

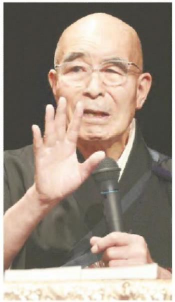
大谷　人を育てる、伝えるということについて、お考えをお聞かせください。

冷泉　うちでは、国宝や重要文化財を納めている「お文庫」に神様が宿っていて、「触ったら罰が当たる」と言われました。苦しい状況でも売られることはなかった。それが、この国の文化財を守る基本と思います。神仏の世界を感じることができる、豊かな心を持つ子どもを育てていきたい。それによって文化も継承されるのではないでしょうか。

加藤　かつて（師の）高田好胤和上は、「大人になってこれからの日本を支える大きな力になる」と、修学旅行生に説法をされた。一生懸命に務められたことが、皆様に愛される薬師寺につながっています。昨年、落慶法要を営んだ東塔の解体修理も、単に建物の延命措置をしたのではなく、1300年にわたって人々がささげてきた祈りを未来につなぐため。それが私たちの役目であると思います。

大谷　目には見えないものへの畏敬の念を姿、形で表す。それが大切なものを伝えていくことではないかと感じました。

1300年の祈り 未来へつなぐ



薬師寺管主

加藤朝胤塾長

かとう・ちょういん　薬師寺まほろば塾塾長。1949年、愛知県生まれ。23歳で入山し、高田好胤和上に師事。日本大法学部、龍谷大文学部卒。2019年から管主。薬師寺宝物管理研究所主任研究員も務め、仏教美術を研究している。

神仏を感じる豊かな心を

歌道宗家・冷泉家

冷泉貴実子さん

れいぜい・きみこ　1947年生まれ。冷泉家第24代為任氏の長女で、25代当主・為人氏の夫人。京都女子大大学院修士課程修了。高校教諭を経て、冷泉家時雨亭文庫事務局長・常務理事。冷泉流歌会を主宰し、「和歌の家」としての伝統を守り伝えている。

畏敬の念を形で表すこと

薬師寺執事長

大谷徹奘さん

おおたに・てつじょう　1963年、東京都生まれ。17歳で入山し、高田好胤和上に師事。龍谷大大学院修士課程修了。2019年から執事長を務める。「心を耕そう」をスローガンに、全国各地で法話を続けている。

文・栢野ななせ、写真・青木久雄

■冷泉さん講演■

四季詠んだ歌 共感する喜び

明治時代の初めに太陽暦になるまでは月の暦、太陰暦でした。旧暦の正月は今年は2月10日。年賀状に「迎春」と書くのは、旧暦の正月が立春の頃だった名残です。今日は旧暦を頭において和歌を見ていきます。

古今和歌集の「雪の内に春は来にけりうぐひすの氷れる涙今やとくらむ」は、凍ったウグイスの涙がとけて春が来る、という歌です。ウグイスが涙を流すか、というとうそなんですが、春を告げる声が聞こえてくる気がしませんか。

夏に鳴くのはホトトギス。「ほととぎす鳴きつる方をながむればただ有明の月ぞ残れる」は、鳴いたほうを眺めたら有明の月が残るだけだった、という歌です。ホトトギスの声を聞くために起きていたんですね。

旧暦の七夕は秋。冷泉家では「乞巧奠」という行事を行います。天の川で隔てられた牽牛と織女が年に1度だけ会える日に和歌を手向けます。「星あひのゆふべすずしきあまの河もみぢの橋をわたる秋風」は、大人の恋遊びを詠んだ歌です。

厳しい冬でも美しいのは雪です。冷泉家の祖・藤原定家の歌「駒とめて袖うち払ふ陰もなし佐野のわたりの雪の夕暮」は、今で言えば、バイクを止めて服に降り積もった雪を払おうとしても、物陰もないような広々とした光景を詠んでいます。

和歌と現代短歌は違います。現代短歌は、明治の文明開化で生まれた文学。「私とあなたは違う」ということを大事にします。

明治維新までの和歌は型の世界。春は梅にウグイス。夏はうの花にホトトギス。秋は七草に白露、マツムシやスズムシが鳴き、月影が宿る――。イメージに近づくことに喜びを見いだす。そこには「私とあなたは同じ」という感覚があります。同じ空間を楽しみ、よい方向に向けるという文化。大切にしたいですね。

参加者の健康と能登半島地震の犠牲者追悼、被災地復興などを祈願した法要

■法要■

能登地震 被災地の復興祈る

講演や鼎談に先立ち、参加者の健康と、能登半島地震の犠牲者追悼・被災地復興を願う法要が営まれた。薬師寺の本尊・薬師如来像御影と吉祥天女像の前で、僧侶3人が祈りをささげた。導師を務めた加藤管主は「奈良の寺では1月に吉祥天をまつり、人々の幸せを願います。それをお参りするのが本来の『初詣』」と説明。「今日は皆さんに初詣をしていただきました。ご苦労されている方々を思い、ありがたいという慈悲の気持ちをお持ち帰りください」と呼びかけた。

老川祥一・読売新聞グループ本社会長あいさつ

昭和40年代、薬師寺管主だった高田好胤さんは「このままでは日本は物で栄えて心で滅ぶ」と、心の大切さを訴えて全国を行脚しました。まほろば塾はその遺志を継いで2004年にスタートし、20年目です。もっと便利になった今も、闇バイトなどの事件が相次ぎ、ウクライナや中東で多くの命が失われています。今日の話をお聴きいただき、心の大切さを広く伝えてください。

＊会員募集　「薬師寺まほろば塾推進の会」は会員を募集している。年会費（1口）は個人6000円、法人30万円。

＊奈良塾　5月6日午後1時から、薬師寺（奈良市）の玄奘三蔵院伽藍で「奈良塾」を開催。人形舞創始者のホリ・ヒロシさんをゲストに、講演や伎楽との共演を予定。参加費3500円。

＊出張講座　薬師寺まほろば塾は、大阪、神戸、和歌山で「法話とお写経の会」を開いている。法話を聴き、般若心経を書写する。参加費は3月は1000円、5月以降は1500円（推進の会会員は無料）。写経は納経料2000円。日程は次の通り。

【大阪】読売大阪ビル地下1階「ギャラリーよみうり」（大阪市北区、午後1時から受け付け）▽3月6日▽6月6日

【神戸】よみうり神戸ホール（神戸市中央区、午後1時から受け付け）▽3月1日▽6月4日

【和歌山】和歌山県民文化会館（和歌山市、午後1時20分から受け付け）▽3月7日▽5月25日

◇

推進の会、法話とお写経の会の問い合わせは、事務局（0742・33・8942）。

薬師寺まほろば塾に協賛しています（順不同）

＜近畿＞
岩谷産業
サントリーホールディングス
近鉄百貨店
パナソニックホールディングス
大阪シティ信用金庫
ワコールホールディングス
今日庵
小山
佐藤木材
＜中部＞
トヨタ自動車
東海旅客鉄道
東海理研
＜関東＞
ウェルリンク
ヒノキ新薬
エヌエスティ・グローバリスト
遠州茶道宗家
クオールホールディングス
山田合同事務所
＜九州＞
はせがわ
＜中国＞
合人社グループ
＜東北＞
熊谷電気